

## 宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と学習について話をしている」児童の割合が市や県よりも多かった。普段の生活について、しっかりと家庭で話し合いがなされ、見守られているという安心感のもとで生活している児童の様子がうかがえる。

○授業の中で、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、互いの意見を交換して学び合っていく活動を重視してきた。その結果「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に肯定的に回答した児童の割合が高く、「人と話すことはたのしい」には9割以上の児童が肯定的に回答している。

○授業の中で、めあてを明確にし、振り返りをしっかり行うことを重視してきた。その結果「授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」に肯定的に回答した児童の割合が高い。めあてを明確にした学習については、今後も継続していきたい。

○家庭学習についての支援を継続している。プリントなどでの復習のほかに、自主学習への支援を継続してきた結果「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」児童の肯定的割合が高い。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」について9割以上の児童が肯定的回答をしている。これからも子どもの考えのよさを引き出し賞賛しながら支援していきたい。

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」「国語・算数・社会の教科などの学習が好き」と答えた児童の肯定的割合が高かった。学習に興味をもって取り組んでいる児童が多いので、さらに楽しく、わかりやすい授業にむけ、教師側の教材研究を進めていきたい。

●自己有用感を高める取り組みを継続してきたが、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分は勉強がよくできるほうだと思う」に肯定的に回答した児童は半数くらいである。より自己有用感を高める取り組みが必要である。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的に回答した児童が8割に届かなかった。友達と交流しながら学び合い学習することで、学習の楽しさ、面白さを感じることができるよう支援していきたい。

●1日のテレビ・ビデオ・DVD視聴時間、ゲームの時間は比較的多めである。有効な時間の過ごし方について話題にし、意識をさせていきたい。